

「子どもたちが学校にくる理由」を考えよう

先日、教育講演会がありました。講師は、心の相談室を運営されている竹内成彦氏です。本人は「私はカウンセラー界では有名な人間です」と面白、おかしく自己紹介をされていましたが、私は全くこの人を知りませんでした。しかし、実は私はこの人の講演をととても楽しみにしていました。不登校、登校しぶり、発達障害、いじめ・・・これらの教育的課題は今後の私たちの教育活動では避けて通れないと考えているからです。今や、「昔の生徒指導」だけでは通用しません。このような課題に教員が指導力を発揮することが今、求められているのです。（「**開発的生徒指導**」「**積極的生徒指導**」と言われています。）

以下、この講演で学んだキーセンテンスを記してみます。

子どもたちが学校へ行く理由は

- ① 学校が楽しくておもしろいから
- ② 意義を感じているから（自分のためになる、将来のためになる）
- ③ 習慣と惰性
- ④ 強制と圧力

この4つを失うと必ず、学校へ行かなくなる。

では学校を楽しく感じない子の特色は

- ① ガマン弱い子
- ② 友達をつくる力が弱い子
- ③ 勉強ができない子

子どもはどうやったら勉強をするようになるの

- ① 「しろしろ」とは言わない方が良く なるべく少なく
- ② 自尊感情や、自己肯定感を高めてやるのが大切
- ③ 自立を促す



竹内氏はこれらを踏まえ、子どもたちに身に付けさせたいことは

- 子どもたちにガマンすることの大切さを教えること
- 自己肯定感や自尊感情を植え付けること の2つだと言われます。

そして、この「自尊感情」を高めるための3つの方法を私たちに、助言してくださいました。（本校生徒の課題の一つですね）

ここが大切だ

自尊感情を高める方法

- ① 子どもをほめること
ただし、結果をほめてはいけない。プロセスをほめること。子どもは、徒競走でトップになったことよりも、ビリになっても頑張ったことをほめてほしいと思っている。いつも、誰でもトップになることはできないのだから。
- ② 日頃から子どもたちをよく見ること
リストカットをしていても気づいてくれない大人がいる。
- ③ 声をかけること、話を聴くこと
子どもは、自分の話を聴いてくれる人が好き。それだけで自尊感情が高まる。とにかく、大人は「聴く」より先に「話したがる」

私は、今、特に課題の多い生徒の「自尊感情」が気になっています。